

徳島市新ホール整備検討会議

意見まとめ

平成30年11月
徳島市新ホール整備検討会議

徳島市新ホール整備検討会議 意見まとめ

新ホールの使命と整備にあたって

いわゆる劇場法〔劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（平成24年6月27日法律第49号）〕にあるように、劇場、音楽堂等は人々の創造性を育み、共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点であり、常に活力ある社会を構築するための大きな役割を担うとともに、「新しい広場」として地域コミュニティの創造と再生、地域の発展を支える機能が期待されています。徳島市の新ホールも「市民の芸術文化の創造拠点」として、「創造」「交流」「鑑賞」の役割を担う施設として議論されてきています。

検討会議では4回にわたって、ホールの整備方針を土地形状や予算制約に配慮して議論してきました。しかし、最も重要な意見は、新ホールは市民の誇りとなるような思いと特徴をもった施設であるべきとのことでした。以下では、整備のために決定すべきホール整備について、委員の発言内容とともに、まとめとしての意見を示します。

大ホールについて

市民の文化創造の場としての運営しやすさを考慮すると、1200席程度が望ましいとの意見は多くの委員、利用者で一致しています。また、敷地規模や他の機能の確保、動線計画などのホールの使いやすさの確保の点でも、文化センター敷地では、1200席程度のサイズが適切と言えます。ただし、自主事業や興行者によって、本格的な芸術文化の鑑賞機会を提供するという視点からは、こうした催しの採算性の向上を図るためには、席数が多いことが必要との意見が見られることから。他の機能を十分確保するのに無理のない範囲で、1200席を超え多くの席数を確保することが望まれます。

小ホールについて

小ホールについては、整備する場合には十分な天井高を有し、舞台装置が装備されたホールとする必要があります。ただし、敷地条件、予算条件を考慮すると、小ホールについては、リハーサル室を活用した創造活動や、周辺にある既存ホールを活用した運営を工夫することで、当該敷地での整備には含めないことが考えられます。

リハーサル室について

市民活動の場、幅広い自主事業を展開する上で、リハーサル室の整備は必須であり、その機能から考えて、大ホールの舞台と同等サイズの広さを有することが望まれます。また、

天井高についても十分な高さの確保が望まれます。さらに、楽器等を持った演者が舞台へ移動する際のしやすさにも十分配慮した設計が望まれます。また、リハーサル室は、その広い空間を活用して、大規模催し時の臨時的な楽屋としての利用、ワークショップや演劇などの市民活動での利用、さらには小規模な興行の場としての利用についても可能なように、設計上の配慮を望みます。

楽屋について

オーケストラ編成人員に加えて制作関係者、舞台技術関係者など総勢 80 人程度の利用を想定し、また個室、大部屋、多目的室などを組み合わせて確保することが望まれます。一部の空間は、市民の創造活動での利用を想定することも望ましいと考えます。

活動室・会議室について

文化芸術に関する市民活動の拠点としての機能を果たすには、活動室、会議室、練習室などは、出来るかぎりの広さと多様な空間を整備することが望まれます。

交流ロビーについて

交流ロビーは、大ホールの催し時に十分な空間を有することはむろん、ホールを使用していない平時は、公開して市民交流の場となるよう、また、ミニコンサートなど催しにも対応できるようすることが必要です。また、平時の市民利用を活性化するため、公衆無線 LAN サービス、ベンチの設置はむろん、カフェ等のサービス、情報コーナー、チケットオフィスなどの整備についても検討を望みます。

観客・出演者等の動線について

市民および利用者や観客、出演者やその関係者、道具搬入などの動線は、既存ホールの好事例を参照に設計し、“セキュリティ確保”とともに“使いやすい”ホールとなるような設計が必要です。

駐車場・搬入について

資材搬入の大型 11 トン・トラックについては前進アクセスで進入して、搬入口に後退駐車し、舞台袖に直接同一平面でアプローチできるような設計が必要です。

費用に関して

他の類似整備事例の費用や敷地規模の条件からみて、現在、市が設定している予算額はおおよそ妥当と考えます。しかし、整備にあたっては、一層の費用節減を工夫できる仕組みを検討するとともに、資金確保の工夫によって、望まれる機能を完備したホール整備を目指すことを熱望します。市民のホールであることを、広く共有する上でも、市民募金によるファンドづくりは有効な方法と考えます。

ホールの建物について

市民が誇れるホール、著名な演者を招聘したくなるホールを目指す上で、音響の性能、特徴ある内装、など性能、デザイン面で秀でた設計を望みます。

このためには、ホール設計に実績のある設計者が、設計に関与できるよう、発注時において配慮を希望します。

ホールの名称について

検討においては「徳島市新ホール」の名称で進めてきましたが、正式名称、愛称などは、今後のプロセスの中で市民参加のもとに制定する工夫が望まれます。

整備手法について

市内に1000席を超えるホールがないという現状に配慮して、2023年度完成を目標として整備することを第一に考え、設計と施工を一体的に進めるデザインビルド方式等の採用が望ましいと考えます。

管理運営等について

新ホールの基本計画に続いて、管理運営計画の見直しを進め、新ホールで行う事業内容、管理運営の方法の策定についても早期に開始することを望みます。

特に、ホールでの自主事業の運営等、魅力あるホールとするため運営主体の選定をなるべく早期に進めることが必要と考えます。ホールの詳細設計に対して整備後のホール運営に責任を有する主体や舞台技術を担う人材の意見が反映できるよう、選定の手順、スケジュールの検討が望まれます。

さらに、文化芸術活動の運営を総括する役割については、それに相応しい人選方法、継続的な関わりの確保などに配慮して進めていただきたいと考えます。

徳島市新ホール整備検討会議 個別意見

項目	意見
大ホールについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 席数によって議論の内容も変わる、まず客席数を決めなければならないのではないか。 ・ 1800席以上なら様々な全国大会が誘致できるが、1500席は中途半端、設備が充実するならば1200席が良いのではないか。 ・ 1500席以上ないと採算性の面で外部から様々な演目を誘致することができないが、市民の発表の場としてならば、1500席は必要ない。 ・ 自主事業（主催事業）を行ったり、若い人たちを含めた今後の将来を考えるのであれば、1500席が必要だと思う。 ・ ポップス系などの有名アーティストは、1500席ないと来てくれないという話がある。1500席の意義はそこにあるのではないか。 ・ 1500席の整備が難しいなら、まず、大ホールとリハーサル室をしっかりとったものに整備することを優先してはどうか。 ・ 1500席にこだわって無理をしてはいけない。 ・ 市民の発表の場としたら、1200程度が適当ではないか。 ・ 1500席の計画案でも面積的には確保されているとのことだが、他の部分にも影響が出てくるので難しいのではないか。 ・ 1200席にプラスして、可能な限り多めに客席を確保したほうがいい。 ・ 徳島市内にアーティストを呼んでほしいという人も多いので、1200席にプラスされる分が、限りなく1500席に近くなるよう考えていただきたい。 ・ 1500席の案で、1年間工期が延びる程度であれば、待ってもいいのではないか。 ・ 外からの騒音や、館内の機械音など特別な音の遮断の配慮が必要である。 ・ 1階客席の後方部分に、2階客席が重なる場合、音響が良くないため避けられるので、重なり部分をできるだけ少なくしたい。 ・ 演劇なら「舞台に近い方がいいのでなるべく層を重ねる。」という考え方もある。バルコニー席を増やしたり、馬蹄形のような客席にするホールもある。

項目	意見
小ホールについて	<ul style="list-style-type: none"> ・小ホールとして整備する場合でも、ホールとしてある程度の天井高がないと意味がない。吊り物が不要な音楽関係のホールと割り切るしかなくなる。 ・中途半端な小ホールなら、既存施設と変わらない。結局は利用されなくなる。 ・装置の要らない小さなコンサート程度ができる多目的な空間にして、色々なものに使えるように計画することも考えられる。 ・小ホールは、近隣施設を活用したり、数多くあるコミュニティセンターを活用することも考えられる。
リハーサル室について	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル室を備えることは必須である。 ・リハーサル室はある程度の天井高を確保したい、4 mでは低い。 ・リハーサル室は1階に欲しい。 ・楽器などを運ぶ場合は、大ホールと同一フロアにある方が使い勝手が良い。 ・リハーサル室は同一平面がいいが、広さの方が優先度は高いだろう。 ・リハーサル室がきちんとつくられていれば、リハーサルだけでなくワークショップなどにも利用できる。 ・別フロアでも、舞台と同じ広さが確保できていれば、舞台を使った練習と同じことができる。 ・地下に大きなリハーサル室をつくることができれば、間仕切りを使って多用途に使える。大ホールを利用している、リハーサル室だけを使うことができる。 ・リハーサル室と活動室の兼用でなく、それぞれ専用にするべき。
楽屋について	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡前の椅子だけでなく、スペースを広く取って自由な使い方ができれば便利である。 ・楽屋にも利用することのできる会議室は必要である。
活動室・会議室について	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室など、市民やボランティアが集まり企画を行えるような場所も必要になる。 ・新ホールを市民の発表の場にするか芸術劇場にするかで、整備内容も大きく異なる。 ・市民がホールを使って面白いことができるというのを優先してもいいのではないか。 ・単にホールがあればいいのではなく、市民が活動するための場所も必要であり、文化振興ビジョンに基づいたホールをどうつくるかを考える必要がある。

項目	意見
交流ロビーについて	<ul style="list-style-type: none"> ・交流ロビーは、ロビーコンサートなどにも活用できる。 ・ロビーは、公演がないときにも開けておき、公演情報の入手やちょっとした待ち合わせにも使える。 ・ホワイエが北側にあれば、中央公園の桜や鷺の門が望めてよいと思う。
観客・出演者等の動線について	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ、出演者、観客が交わらないように工夫してほしい。 ・終演時は大勢の人が集中するので、動線などはしっかりと考えないといけない。 ・徳島駅方面からバリアフリーで来られることも必要で、どこかに線路を跨ぐエレベーターが欲しい。
駐車場・搬入について	<ul style="list-style-type: none"> ・1500席の案では、搬入トラックが後進で入らざるを得なく、大変不便である。 ・搬入、搬出時は、2台～3台の11t車が来ることになる。搬入口をどこにおくかは大きな課題である。
費用に関することについて	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地の状況や市の財政状況を考えれば、1200席で妥協せざるを得ないのではないか。 ・市民が自慢できるホールなら、法人・個人問わず応援する人がいるだろう。民間の資金を導入して整備している事例もある。
自主事業やサービスについて	<ul style="list-style-type: none"> ・事業展開、施設運営のコンセプトが必要で、最初から考えていないといけない。 ・専門家が入り、自主的な事業公演を計画している公共ホールも増えてきている。そのためには専門的な人材の育成が必要不可欠であり、人件費や運営費の確保も重要である。 ・アマチュアの方がコンサートを行うときに、ホールの専門家からアドバイスやサポートをいただくと、芸術がソフトの面からも支えられる。
ホールの建物について	<ul style="list-style-type: none"> ・音響が優れたホールであるとか、徳島産の木や藍、青石を活用するなど、県外の人へ、「こういう特徴があるホールだ。」と自慢でき、質的にレベルの高いホールにしてほしい。 ・外観などを豪華にしたり、華美な装飾の施設は必要なく、中の機能をしっかりと備えてほしい。
ホールの名称について	<ul style="list-style-type: none"> ・「音楽芸術ホール」で議論されていたこともあるが、今は「新ホール」という名称で決定なのか。 ・幅広く舞台芸術が上演できる場、発表の場が整備されるのなら、名称にはこだわらなくて良いのでは。

項目	意見
整備手法について	<ul style="list-style-type: none"> ・新ホールの整備にあたっては、できるだけ早期の開館が実現可能な整備手法について検討してほしい。
管理運営等について	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島にゆかりのある方に、芸術監督や音楽監督をお願いすることはできないか。ホールが完成してからでなく、現段階からホール機能の検討等も含め、協力をお願いすることはできないか。 ・まずホールの事業展開、施設運営のコンセプトがあるべき、1500席の大ホール、舞台の大きさに合わせたリハーサル室、小ホール、活動室、会議室などが納まらないのなら場所が不適格であると考える。 ・新ホールの開館を見据え、ホールを効率的に管理運営し、魅力ある事業展開を実施するため、運営主体等の検討もはじめていく必要がある。 ・ホールでの貸館と、子どもたちの将来のための自主事業の二本柱でやっていって欲しい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールのない状態がこれ以上続き、子ども達の活動の場所が無いのは良くない。 ・第1回会議で文化センター敷地で検討するのかと確認した。敷地が限られているのでいろいろなものは入らない。 ・駅西での計画は見直すことになったが、今までの整備計画で書かれていることを否定する話ではないと理解している。 ・「あの舞台に立ってみたい。」と思えるホールなら、子どもの育成にも繋がる。 ・何を優先して整備するかということは、いろんな意見を出して、議論がされて、最後に責任を持って決めるのは行政であると思う。

徳島市新ホール整備検討会議開催概要

	開催日	議題等
第1回	平成30年10月12日(金)	○徳島駅西側駐車場での検討結果について ○今後のホール整備の考え方 ○文化センター敷地の現況と課題
第2回	平成30年10月22日(月)	○他都市の状況について ○文化センター敷地での整備可能性について1
第3回	平成30年10月29日(月)	○講演「劇場、音楽堂等の整備について」 ・講師:兵庫県立芸術文化センター副館長 藤村 順一 氏 ○文化センター敷地での整備可能性について2
第4回	平成30年11月5日(月)	○意見のまとめ

徳島市新ホール整備検討会議設置要綱

(設置)

第1条 徳島市における新ホールの整備にあたり、有識者による検討を行うため、徳島市新ホール整備検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討会議は、次に掲げる事項について専門的見地から検討し、意見を述べる。

- (1) 新ホールの整備を推進するために必要な事項
- (2) その他検討会議において必要と認める事項

(組織)

第3条 検討会議は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 文化、建築、経済等各分野の代表者
- (3) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、本要綱の施行日からその任務が達成されたときまでとする。

(会長及び副会長)

第5条 検討会議に会長及び副会長を置く。

- 2 会長は、委員の互選によって定める。
- 3 副会長は、委員の内から会長が指名する。
- 4 会長は、検討会議を代表し、会務を総括する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会長は、必要に応じて検討会議を招集し、その議長となる。

- 2 検討会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の関係者の出席を求め、関係事項について説明又は意見を聞くことができる。

(守秘義務)

第7条 委員は、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第8条 検討会議の運営に関する事務は、市民環境部文化振興課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営等に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成30年10月5日から施行する。

徳島市新ホール整備検討会議 委員

氏名	団体・役職名	備考
浅香 寿穂	徳島県演劇協会 顧問	
生駒 元	徳島交響楽団 専務理事	
国頒 直子	徳島市文化協会 副会長	
小西 誠一	一般社団法人徳島県建築士事務所協会 相談役	
高畑 富士子	阿波女あきんど塾 キャスト	
田村 耕一	阿波銀行 地方創生推進室 参事役	
山中 英生	徳島大学大学院 教授	会 長
吉森 章夫	徳島県音楽協会 会長	副会長

(敬称略：五十音順)